



正しく強く美しく

校長室だより
No. 9
令和6年9月18日
豊橋市立南稜中学校

南稜中学校「創立75周年記念式典」に向けて

2学期がスタートして2週間がたちました。南稜中の校舎には爽やかな挨拶が響いています。南稜中では「挨拶」や「ボランティア」などに前向きに取り組む生徒が育っています。そして、10月24日(木)には、「創立75周年記念式典」が行われます。

「挨拶の南稜」を校区に広げています

生徒会の発案で9月9日(月)、10日(火)、11日(水)には、校区の4小学校へボランティアの生徒が訪問し、朝の挨拶の輪を広げました。



「挨拶の南稜」が着実に校区に浸透しています。

「航空写真」を撮影しました(9月6日)



従業員の案内で工場を見学する南稜中の生徒＝武蔵精密工業で(職場体験中の豊川市立西部中学校2年、相川可成さん撮影)

豊橋市立南稜中学校は、授業で3年間を通してSDGs(持続可能な開発目標)について学んでいる。12日、同市橋田町の「武蔵精密工業」本社を3年生210人が訪れ、同社のSDGsに関する取り組みを学んだ。座学と工場見学があった。座学では1938年に東京で大塚製作所として発足、航空エンジンや気化器の製造からスタートし、戦後に豊橋市へ移転してからエンジン部品産業に転換し、技術を生かして発展してきた会社であることを学んだ。

3年間通じて豊橋南稜中生徒

未来志向で学ぼうSDGs

武蔵精密工業で3年生見学

武蔵精密工業の「SDGs」を学びました

豊橋市立南稜中学校は、授業で3年間を通してSDGs(持続可能な開発目標)について学んでいる。12日、同市橋田町の「武蔵精密工業」本社を3年生210人が訪れ、同社のSDGsに関する取り組みを学んだ。座学と工場見学があった。座学では1938年に東京で大塚製作所として発足、航空エンジンや気化器の製造からスタートし、戦後に豊橋市へ移転してからエンジン部品産業に転換し、技術を生かして発展してきた会社であることを学んだ。

社であること、新型コロナウイルスウィルス禍で新しい分野に挑戦していることなどを教えられた。SDGs関連ではカーボンニュートラルなどエネルギー分野での挑戦が大きい。自社工場の太陽光発電など再生可能エネルギーの活用や、省エネルギー化を実践していることを学んだ。工場見学では稼働中の様子を見学し、施設内の省力化や品質管理がどのように成り立っているか、従業員がどのように働いているかを見た。

記念式典は全校生徒、職員、同窓会役員をはじめとした、地域の代表の方で行わせていただきます。

当日は、記念講演として、武蔵精密工業の大塚様からお話を伺う予定です。

その後、生徒会企画が行われます。南稜クイズや、全校アート披露を通して「南稜中学校」を詳しく知り、もっと好きな学校になるように、企画をすすめていきます。



令和6年9月13日(金) 東愛知新聞

10月24日(木)には、本校の卒業生で武蔵精密工業を経営してみえる大塚様が、「グローバルでの挑戦」といった内容で記念講演を行ってくださる予定です。3年生は武蔵精密工業の魅力を追究するためにSDGsという視点で見学を行いました。

る企業があることに驚いたと語った。(岸佑樹)

<記念リーフレット>